



増加する梅毒にご注意を！

感染症発生動向速報

(平成 30 年第 42 週分・10 月 15 日～10 月 21 日)

《 インフォメーション 》

●梅毒

全国の梅毒の年間報告数が過去 5 年で急増しています(図参照)。特に近年では異性間性交渉による梅毒の報告数が増加しています。過去 5 年の県内の報告数は 6～20 件で推移しており、今年には既に 11 件報告されています。

梅毒は、梅毒トレポネーマ(細菌)を原因とする感染症です。妊婦が感染することで胎児も感染する「先天梅毒」と、性交渉の際、梅毒患者の病変部に接することで感染する「後天梅毒」に分けられます。後天梅毒の症状の進行は次の 3 期に分かれており、**様々な症状の出現と消失を繰り返します。**

第 I 期梅毒：感染から約 3 週間後に感染部位の皮膚や粘膜に硬結ができますが、2～3 週間で消失します。

第 II 期梅毒：約 3 か月後には全身に赤い発疹(バラ疹)が出現します。この他に発熱や全身倦怠感、関節痛など様々な症状が出現しますが、数週間～数か月で消失します。

晩期梅毒：約 3 年以上経過すると、皮膚や粘膜、骨を中心としてあらゆる臓器にゴム腫と呼ばれるしこりができ組織を破壊します。また心臓血管の炎症や脳や脊髄に病変を作る神経梅毒も出現し、これらが死につながる場合があります。

早期頭症梅毒(第 I 期と第 II 期)の段階は人から人へうつりやすく、予防の上で重要となります。梅毒は抗生物質で治療できるため、早期発見、早期治療が重要ですが、まずは感染しないことです。**コンドームの使用により感染のリスクを低下させることができます。**

《 全数報告の感染症 》

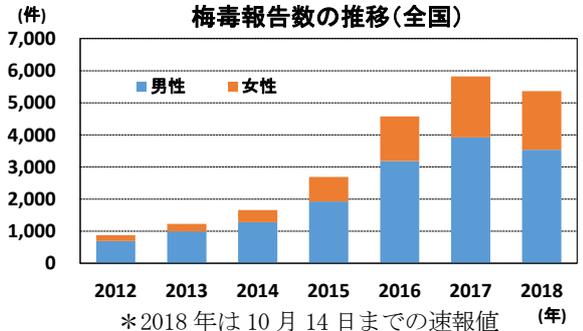
二類感染症 結核 4 件 (①第 41 週診断分：70 歳代、女性
②30 歳代、男性 ③70 歳代、男性 ④90 歳代、女性)

五類感染症 アメーバ赤痢 1 件 (50 歳代、男性、腸管アメーバ症)
急性脳炎 1 件 (第 40 週診断分：10 歳未満、女性)
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件 (第 41 週診断分：80 歳代、女性、A 群)
侵襲性肺炎球菌感染症 2 件 (①60 歳代、女性 ②80 歳代、男性)
水痘(入院例) 1 件 (第 40 週診断分：10 歳代、女性)
百日咳 2 件 (①②ともに 20 歳代、女性)
風しん 2 件 (①②ともに 40 歳代、男性)

《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位 6 疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週 (増減)	先週
1 位	感染性胃腸炎	3.62 (↑)	3.24
2 位	RS ウイルス感染症	1.79 (↑)	1.66
3 位	ヘルパンギーナ	1.34 (↑)	1.17
4 位	流行性角結膜炎	0.86 (↑)	0.14
5 位	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.79 (↑)	0.72
6 位	手足口病	0.72 (↑)	0.34

平成 30 年 10 月 24 日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)



○感染症発生動向調査報告状況（平成30年第42週 平成30年10月15日～平成30年10月21日）

分類	疾患	今週報告分（第42週）					累積報告数							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
二類感染症	結核			1		2	3	9	13	47	17	76	162	
三類感染症	細菌性赤痢										1		1	
	腸管出血性大腸菌感染症							3	3	4	3	11	24	
	バラチフス											1	1	
四類感染症	E型肝炎							1		1	1		3	
	A型肝炎											4	4	
	つつが虫病											1	1	
	デング熱										3		3	
	レジオネラ症							2	1	7	4	21	35	
五類感染症	アメーバ赤痢					1	1				1	1	2	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症									4		8	12	
	急性弛緩性麻痺										1		1	
	急性脳炎							2		1	1	2	6	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症							4	1	6	2	6	19	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症							2		2		1	5	
	侵襲性肺炎球菌感染症					2	2	2	2	7	4	16	31	
	水痘（入院例）							2		2		3	7	
	梅毒									1		10	11	
	播種性クリプトコックス症											3	3	
	百日咳					2	2					9	12	
	風しん			2			2			3	1	4	8	
	定点疾病 <small>（下段は定点当たりの患者数を示す）</small>	インフルエンザ							2,232	1,824	3,485	2,449	5,356	15,346
		RSウイルス感染症	4	2	12	3	31	52	62	38	229	87	580	996
咽頭結膜熱		2	2	2		2	8	221	76	252	29	294	872	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	3	4	1	13	23	158	115	539	216	766	1,794	
感染性胃腸炎		31	14	15	5	40	105	1,147	775	1,228	227	2,738	6,115	
水痘					2	4	6	20	6	93	56	106	281	
手足口病		1		9	11		21	9	12	104	94	123	342	
伝染性紅斑						1	1	7	2	91	44	39	183	
突発性発しん				4	1		5	54	42	193	48	142	479	
ヘルパンギーナ		13	1	10	7	8	39	107	104	316	94	279	900	
流行性耳下腺炎			1	2		1	4	5	11	22	4	37	79	
急性出血性結膜炎			0.33	0.25		0.10	0.14				1	14	1	16
流行性角結膜炎				5		1	6	2	18	16	4	6	46	
細菌性髄膜炎				2.50		0.50	0.86						5	5
無菌性髄膜炎												2	2	
マイコプラズマ肺炎						1	1	6	4	6	6	10	32	
クラミジア肺炎											1	3	4	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）								3		4	2	7	16	
インフルエンザによる入院患者（*）					1		1					1	1	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、平成30年第36週(9月3日)～の集計です。